兵庫県立はりま姫路総合医療センター

消化器外科・総合外科

指導担当医（役職）

酒井　哲也（副院長）

実習概要

実習コース

４週間コース

概要

当科での臨床実習は、主治医チームの一員として主に手術を含む病棟業務を中心に行っていただくことになります。実習は患者6～8人程度を担当する主治医チームの一員として実習を受けてもらいますが、当科では病棟業務は病棟医長の管理のもと、7チーム制を敷いています。チームでは専攻医と卒後10年以上の経験豊富なスタッフで患者の周術期管理を行っていますが、専攻医と行動を共にしながら積極的に臨床に参加してもらうことになります。手術は卒後20年以上の各専門領域の指導医により手術指導が行われており、充実した実習を送っていただけるものと確信しています。また、当院は救命救急センターを併設していますので、通常の日勤帯においても多くの救急疾患の対応が必要であり、多発外傷などの３次救急を含む第１線の救急医療も体験していただけるものと思います。

実習スケジュール

1. 主治医チームとともに担当入院患者の周術期管理を行います。回診はチームごとに行い、担当患者の病態把握を行い、治療計画を立て、それを実践します。
2. チームでの回診は朝夕2回行われ、これに参加していただきますが、朝の回診は9時に行われるので、回診までにカルテで情報収集を行い、疑問点は主治医に確認し、診療計画を立案しておいてください。回診で当日及び今後の治療計画をチーム内で確認するとともに術後の創処置含めベッドサイドでの患者診療を行います。

3. 予定手術への参加がない場合は主治医チームとともに病棟の処置や検査、ICなどに参加していただきますが、救急症例が割り当てられることも少なくありません。カルテ記載を含め、デスクワークは空き時間を自主的にかつ有効に使用しないと時間内に完了できないので注意してください。
4. 術前、術後のカンファレンスに参加し、少なくとも1例の担当症例のプレゼンを行っていただきます。プレゼンに際しては事前にチーム内のスタッフあるいは専攻医から指導を受けていただきます。
5. 実習3週目の金曜日には文献抄読会で英語文献の発表をしていただきます。

		7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17
第１週目	月			オリエンテーション	主に手術（空き時間に主治医とともに病棟業務）						回診	カルテ記載と質疑
	火		病棟	回診	主に手術（空き時間に主治医とともに病棟業務）					カルテ記載と質疑	回診	cancer board
	水		術前検討会	回診	主に手術（空き時間に主治医とともに病棟業務）						回診	カルテ記載と質疑
	木		術後検討会	回診	主に手術（空き時間に主治医とともに病棟業務）						回診	カルテ記載と質疑
	金		文献抄読会	回診	主に手術（空き時間に主治医とともに病棟業務）						回診	カルテ記載と質疑
第２週目	月		術前検討会	回診	主に手術（空き時間に主治医とともに病棟業務）						回診	カルテ記載と質疑
	火		病棟	回診	主に手術（空き時間に主治医とともに病棟業務）					カルテ記載と質疑	回診	cancer board
	水		術前検討会	回診	主に手術（空き時間に主治医とともに病棟業務）						回診	カルテ記載と質疑
	木		術後検討会	回診	主に手術（空き時間に主治医とともに病棟業務）						回診	カルテ記載と質疑
	金		病棟	回診	主に手術（空き時間に主治医とともに病棟業務）						回診	カルテ記載と質疑
第３週目	月		術前検討会	回診	主に手術（空き時間に主治医とともに病棟業務）						回診	カルテ記載と質疑
	火		病棟	回診	主に手術（空き時間に主治医とともに病棟業務）					カルテ記載と質疑	回診	cancer board
	水		術前検討会	回診	主に手術（空き時間に主治医とともに病棟業務）						回診	カルテ記載と質疑
	木		術後検討会	回診	主に手術（空き時間に主治医とともに病棟業務）						回診	カルテ記載と質疑
	金		文献抄読会	回診	主に手術（空き時間に主治医とともに病棟業務）						回診	カルテ記載と質疑
第４週目	月		術前検討会	回診	主に手術（空き時間に主治医とともに病棟業務）						回診	カルテ記載と質疑
	火			回診	主に手術（空き時間に主治医とともに病棟業務）					回診	CPC	cancer board
	水		術前検討会	回診	主に手術（空き時間に主治医とともに病棟業務）						回診	カルテ記載と質疑
	木		術後検討会	回診	主に手術（空き時間に主治医とともに病棟業務）						回診	カルテ記載と質疑
	金		病棟	回診	主に手術（空き時間に主治医とともに病棟業務）						回診	カルテ記載と質疑

学生へのメッセージ

当科での実習は手術参加による実習が主体となりますが、手術に参加していただく以上、個々の患者の病態把握は極めて重要であり、決してそれをおろそかにするものではありません。手術は患者さんを直接的に傷つける侵襲的な治療法であることを自覚し、その責任の重さを実感していただきたくことで外科医としての心構えを体感していただければと考えています。